

地平線

全日本港湾労働組合
関西地方建設支部機関誌

2018年 2月20日 345号

全日本港湾労働組合関西地方建設支部

〒552-002

大阪府大阪市港区築港1-12-27

電話 06-6572-2105 / FAX 06-6574-5648

kensetsu @ crux. ocn. ne. jp

今年の春闘が動き始めています。

「人手不足」に対応するのには「賃上げ」を！

建設支部書記長 野崎 健

春闘が「全国の国民行事」として本格的に動き出す時節となりました。みんなで討論をして作成した賃上げの要求を会社側に提出して交渉に入っていきます。

安倍政権になって5年。「アベノミックス」で景気が良くなったとかいう自慢とか宣伝はされても税金・各種保険など公的負担が増え可処分所得は減る一方で生活は厳しくなるばかりです。

日本の経営者は労働者を「最低の賃金」と「最低の労働条件」で働かせて利益を得ようとかいうふうに考える古典的資本主義の原理に固執する傾向が強く低賃金不安定な非正規雇用労働の拡大をすすめて「国民総貧困化社会」を生み出しています。

人々の消費に大きく依存する国民経済は労働者が貧しくなって発展することはありません、また最低の賃金で労働者から創造性やイノベーションのある労働を引き出そうとしても無理な話で、その意味で「働き方改革」「生産性革命」とか「????革命」なるチン用語は、本当に悪い冗談か、ブラックジョークとしか言いようがありません。

安倍首相自身が春闘時に賃金引き上げを「補助金付き(法人税減税)」でも財界に要



請するといったことまでしないとならないということは、このままでは日本の国と社会の衰退化が避けられないという為政者なりの判断があるのだと思います。

しかし政府の介入によってしか賃金が上がらないというのはあまりにもゆがんだ現実です。

働く労働者が自分たちのこととして参加できる春闘でありたいものです。



「太平サービスビル分会の現状と展望」

太平ビルサービス分会書記長 松谷 友策

支部のみなさん、いつも私達太平ビルサービス分会の闘いにご理解とご支援を頂きありがとうございます。

一昨年8月の前委員長等による全港湾脱退騒動後、踏み止まった分会員70余名は、意気軒昂に春闘を迎えようとしています。

私たちは1月19日、26日、2月2日と金曜日ごとに大東地区、和歌山橋本地区、大阪・東大阪地区と順に旗開きを行ないました。仕事や家庭の都合もあるなかで延べ78名の組合員が集まり、酒食の宴で互いの労をねぎらい、より良き明日を求めて歓談しました。



「人が足りないので入れて欲しい」「賃金が低いから人が来ない」「感染症対策をしっ

かりとって欲しい」という声や、会社が仕事を落札できず、職場を追われた仲間からは「職場を返して欲しい」といった意見が出ていました。

今や分会員の構成は以前とはかなり変わりました。本社事務所内勤の若手幹部が分会組織を引っ張るスタイルから、8割近くが女性であり、「70歳定年」を目前に控えた清掃現場労働者が主力となる組織への変化です。それ故に分会の今後を語る時、「70歳定年」の廃止は切実な要求ですし、本社事務所の姿が見えないのは警戒を要します。その中で自らの職歴を生かし、分会のホームページを立ち上げる試みは時代に即した取組です。それぞれの知恵を出し合い、生き抜いてゆく覚悟が問われているのだと思います。

そういう私も、内勤管理職出身という立場から今年3月末で、雇用の65歳打切りを宣告されています。正面から対するののか、外していくのか、……思案の最中です。

2月23日(金)18:30から地本会議室にて「木下さんをしのぶ集い」が開かれます。

皆さんこぞっての参加よろしく願います。

木下さんをしのぶ会

と き 2018年2月23日(金)
18:30～

ところ 大阪港湾労働会館3階
/地本第2会議室
(最寄駅：地下鉄「大阪港」)